

## 近藤 正美 議員

### 熱中症対策は

**問** 小学校、中学校での熱中症対策はどうか。

**答** 各小中学校では、熱中症計を設置している。気温や湿度、気流などを計測し、熱中症予防運動指針に従って「運動の禁止」や「厳重警戒」などを廊下や昇降口に表示するとともに、放送で注意喚起を行っている。

### 3 Days Worker's Office 構想の取り組みは

**問** コミュニティセンターとの連携をどのように図るか。

**答** 今年度、「大人の社会科見学」などを計画するとともに、コミュニティセンター化が指す地域課題やニーズへの対応にも、タスカルネットワークの労働力をつなげる仕組みづくりを検討したい。

## 浅田 二郎 議員

### 防災への取り組みは

**問** 風水害に対する市と自主防災隊との連携はどうか。

**答** 自主防災隊の役割として、大雨時には、インターネットなどによる河川の水位や浸水状況の監視、避難誘導などがある。同報無線やメローネットによる市からの情報提供や、正しい情報のもとに早めの避難行動を促すなど、取るべき行動の共有化を図りたい。



大人の社会科見学 (デンマーク牧場)

### 「安全協定」の見直しを

**問** 茨城県で電力会社と原発周辺自治体が、新たな協定を結んだ。市長の見解は。

**答** 原発を再稼働する際、UPZ圏内（原発から30キロ以内）の自治体からも事前了解を得る仕組みを協定に盛り込んだことは、大変意義あることと考えている。

**問** 本市が中部電力と締結した安全協定は、不十分なもので、茨城県での新協定に倣って見直すべきではないか。

**答** 新たな安全協定締結には、多くの課題があると思うが、現在の5市2町の協定には再稼働に関する明確な事前同意の表現はない。今後、御前崎市や掛川市などの原発地元4市が事前同意の勉強会を行うと聞いていることなどから、こうした動きを注視し、UPZ圏内5市2町で意見を交わしていきたい。

### 待機児童ゼロは最重要課題

**問** 昨年、子ども・子育て支援事業計画を見直したが、その推定を、0歳児人口でも、利用希望率でも大幅に上回った。来年待機児童ゼロを実現できるのか。

**答** 31年4月開園の「ルンビニあゆみ園」は、0歳児9人、1歳児18人、計27人の増となる。また、小規模保育施設の新設意向もあり、待機児童解消となるよう努力していきたい。



小規模保育施設「ハローきつず」